

兵庫県こころのケアセンター 平成29年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容の見直しも行われ、ボリューム、質ともに目標を十分にクリアしている。目標500人以上に対し660人もの受講があり、安定した受講実績につながっている。満足度も4.3点と一昨年から引き続き高いレベルを維持していることは評価できる。 ・ また、県外受講者の構成比率は48.9%と県外にも広がっていることは、地域における「こころのケア」の拠点としての重要性が認知されている証である。 ・ 特別研修は、当センターでこそ実施できる研修として、確実な基礎的内容の習得とその後の研修内容の高度化、専門化へと今後も継続して実施されることが期待される。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころのケア」シンポジウムは、近年大きな社会問題となっている「いじめ」をテーマに開催され、時宜にかなったユニークで興味深いものとなっている。参加者の94%が有益であったと評価するなど、質の高い発信が行えているものと考えられる。 ・ また、ホームページにおける発信も175千件ものアクセスがあるなど、設定された目標を大幅に超えており、当センターの果たす役割が明確になり、ニーズへの対応が十分にできているという点で評価する。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害支援で現地の活動を支援することは、各地が自ら再生する力を支えることから、災害時支援の重要な方針である。当センターはこの方針のもと平成29年度も活発な活動を継続した。 ・ 東日本大震災、熊本地震、チリ大地震等に対して、地域の特性に応じた息の長い支援を継続していることを高く評価する。 ・ また、「ひょうごDPAT」体制の整備として熊本地震（H28）で行った活動経験を基に、内閣府の大規模地震時医療活動訓練をより実践的、効果的な形で実施したことは評価に値する。
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当センターの専門性とその役割の認識が広がっていることに加え、土曜日の開庁など、より利用者の立場に立った工夫ときめ細かな対応が行われた結果、トラウマ・PTSDに関する相談実績も増加傾向にある。この実績数の増加は、市民から高く評価されていることの証左であり、引き続き「こころのケア」に関する専門的な相談に応じるなど重要な役割を果たしてほしい。 ・ また、性被害についての相談を受け入れることのできる施設が少ない中で、当センターでの相談件数の増加は、専門機関としての役割を果たしていることの証であり、高く評価する。今後も、専門機関として、他の関係機関との連携や継続的な支援を一層進めていただきたい。

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日の受診件数は、平成29年度は794名（前年度比99.3%）と昨年度よりやや減少しているが、診療延べ件数は平成29年度の受診件数は2,757件（前年度比100.7%）と昨年度よりやや増加している。受診者の抱える問題の性格上、診療時間が長くなるため、診療の数値だけで判断すべきものではないが、本件取り組みの意義は依然高いものと評価する。 また、トラウマ治療を専門的に行える医療施設が少ない中、当センターへの期待は非常に大きいものがあり、子どもの受診者の割合が高くなっていることも評価できる。複雑で困難なトラウマ・PTSD関連疾患への研究・専門診療機関としての機能が、今後益々発揮されることを期待する。
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な指標でもある音楽療法専門講座修了者（兵庫県音楽療法士補）数は、3年前より減少傾向にある。 このような傾向に対し、講じた対応策、得られた結果についての分析をしっかりと行い、さらに音楽療法の有益性の認知度を向上させるための啓発活動、講座運営や指導内容の充実など、より実践的、かつ優秀な音楽療法士の養成に取り組むことを期待する。 音楽療法士養成講座受講生に対するきめ細かい指導を行っていることも評価できる。
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ターミナルケア」、「グリーンケア」とともに、通常関心が持たれにくい重要なケアの普及に努められていることは、評価に値する。 「アートとこころのケア」は定員に達しなかったが、3講座全体で170名が受講し目標数を達成しており、受講者の満足度アンケート（総計）についても89%と目標が達成されている。 「アートとこころのケア」は、2年目の新規講座であるが、なぜ定員に達しなかったかなど、受講者アンケート等を分析の上、ニーズ確認、ターゲット層へのアプローチを検討するなど、「家庭、地域、施設等において、「ヒューマンケア」理念の普及啓発と実践を担う人材の養成講座を実施する。」という、当センターの使命に照らし、戦略的実施が重要である。
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> 収支に関して、業務の質を保ちながらも黒字を達成し、安定的な運営のための収支バランスの確保ができていると評価できる 外部評価委員会からの意見を取り入れ、事業執行上の改善に努めている。 トラウマ研究・治療・研修等、当センターのユニークな事業を活発に展開し、県内はもとより県外からも高く評価される一方で、経済的収支をきめ細かく整えられた努力は評価に値する。
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年計画の2年目にあたる長期研究の4テーマ、及び短期研究の3テーマとともに、トラウマに関連する独自性、有益性の高い、当センターならではの研究であり、着実に進展している。 競争的資金による研究は、先進的で意義の高い研究で成果を出していることで獲得できるものなので、引き続き外部資金獲得への努力を期待したい。 近い将来、これら研究成果が治療等に反映されることを期待する。

（評価基準）

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。